

美郷大使鼎談

～美郷のまちづくりを語る～
から

佐々木大使：そうですね。保水力や肥沃な土壌を増やすという観点から、流れは混交林化に向かっていると思います。これは私の夢ですが、森林、水、食料、そして花を含めて、自然と人間の努力がベストミックスされた世界ができればいいなと思っています。

町長：ベストミックスから生まれる物は可能でしょうか。

永田大使：美しい風景は日本中にたくさんありますよ。その風景が誰かにとって特別になるためには、想い出やエピソード、つまり物語が必要です。映画のロケ地や物語の舞台になると、その風景が特別になります。美郷町には相応しい場所がたくさんありますので、そういう仕掛けは可能だと思います。

ただ、美郷町は、ポイントとしては良い風景があるのですが、もう少し連続した風景が欲しいと思います。例えば、道路は皆さんにとっては生活道路ですが、よそから来た者にとっては見たい場所と見たい場所をつなぐ線です。もつと花を植えてみるとか、並木を作ってみるとか、小さな点を増やしてくような連続性が欲しいと思います。そこから自然と物語は生まれてくると思うのです。私はいつも「美郷の美しい風景を絵に残したい」と考えています。ささやかですがエピソードづくりのお役に立てれば嬉しいです。

町長：（交流人口を拡大させるための施策として、東京都大田区を中心とした他地域との交流、農作業体験の受け入れ、湧水やラベンダーなどの観光資源の活用、空き校舎の宿泊交流施設としての活用について説明した後）交流人口の増加について町田大使からご意見をお願いします。

町田大使：観光分野は経済波及効果が大きいので、大切にしていかなければいけません。しかし、地域全体がよその人を歓迎する雰囲気が必要。観光は育ちません。旅の面白さは旅先の人々との触れ合いの中で生まれてくるものです。地域を挙げて「観光客をお迎えする」という気持ちを持つことが大切だと思います。

松田町長から大田区との交流や農作業体験の受け入れについて説明がありました。農業は人生を終えるまで自然と触れ合える、生きがいを感じられるという利点を持っています。定年を迎えた都市部の人間にとって、土と触れ合うことは楽しみのひとつでもありますし、特に大田区にはそういった方が多いのではないのでしょうか。このような人たちに農作業体験を通じて美郷町に来ていた

だくことも必要になると思います。寂しい話ですが、人口減少が進むにつれて、美郷町の様相は変わっていくことでしょう。老人ホームを作って都市部の高齢者を受け入れるという構想も良いのではないのでしょうか。

交流人口の増加について

旅の面白さは人との触れ合い 地域を挙げて観光客のお迎えを

町長：（交流人口を拡大させるための

施策として、東京都大田区を中心とした他地域との交流、農作業体験の受け入れ、湧水やラベンダーなどの観光資源の活用、空き校舎の宿泊交流施設としての活用について説明した後）交流人口の増加について町田大使からご意見をお願いします。

町田大使：観光分野は経済波及効果が

大きいので、大切にしていかなければいけません。しかし、地域全体がよその人を歓迎する雰囲気が必要。観光は育ちません。旅の面白さは旅先の人々との触れ合いの中で生まれてくるものです。地域を挙げて「観光客をお迎えする」という気持ちを持つことが大切だと思います。

松田町長から大田区との交流や農作業体験の受け入れについて説明がありました。農業は人生を終えるまで自然と触れ合える、生きがいを感じられるという利点を持っています。定年を迎えた都市部の人間にとって、土と触れ合うことは楽しみのひとつでもありますし、特に大田区にはそういった方が多いのではないのでしょうか。このような人たちに農作業体験を通じて美郷町に来ていた

だくことも必要になると思います。寂しい話ですが、人口減少が進むにつれて、美郷町の様相は変わっていくことでしょう。老人ホームを作って都市部の高齢者を受け入れるという構想も良いのではないのでしょうか。

人的交流は地域力のバロメーター
交流を通じて移住に発展を

町長：（交流人口を拡大させるための施策として、東京都大田区を中心とした他地域との交流、農作業体験の受け入れ、湧水やラベンダーなどの観光資源の活用、空き校舎の宿泊交流施設としての活用について説明した後）交流人口の増加について町田大使からご意見をお願いします。

人的交流は地域力のバロメーター 交流を通じて移住に発展を

町長：（交流人口を拡大させるための

施策として、東京都大田区を中心とした他地域との交流、農作業体験の受け入れ、湧水やラベンダーなどの観光資源の活用、空き校舎の宿泊交流施設としての活用について説明した後）交流人口の増加について町田大使からご意見をお願いします。

町田大使：観光分野は経済波及効果が大きいので、大切にしていかなければいけません。しかし、地域全体がよその人を歓迎する雰囲気が必要。観光は育ちません。旅の面白さは旅先の人々との触れ合いの中で生まれてくるものです。地域を挙げて「観光客をお迎えする」という気持ちを持つことが大切だと思います。

松田町長から大田区との交流や農作業体験の受け入れについて説明がありました。農業は人生を終えるまで自然と触れ合える、生きがいを感じられるという利点を持っています。定年を迎えた都市部の人間にとって、土と触れ合うことは楽しみのひとつでもありますし、特に大田区にはそういった方が多いのではないのでしょうか。このような人たちに農作業体験を通じて美郷町に来ていた

だくことも必要になると思います。寂しい話ですが、人口減少が進むにつれて、美郷町の様相は変わっていくことでしょう。老人ホームを作って都市部の高齢者を受け入れるという構想も良いのではないのでしょうか。

町長：町田大使の「スモール・イズ・ビューティフル」、佐々木大使の「森林」、永田大使の「花」という特色の組合せについて、ご意見ありますでしょうか。

町田大使：農業の中でも野菜や花きの売り上げが伸びているようです。米以外の美郷のツールを見直すことは意味のあることだと思います。森林の問題では、今、木材の良さが見直されているようですので、ぜひ

佐々木大使の指導を仰ぎながらチャレンジしていただきたいと思っています。

町長：町では毎年、小学校4年生を対象に水源涵養林である七滝山にブナの苗木を植樹しています。日本の林業は混交林の方向に向かっていて、杉と広葉樹の混交林化には寄与する取り組みだと思います。また色を大切にするという観点では、永田大使がおっしゃった常緑と落葉のコントラストにつながると思います。佐々木大使は混交林についてどのような見解でしょうか。

町長：（交流人口を拡大させるための施策として、東京都大田区を中心とした他地域との交流、農作業体験の受け入れ、湧水やラベンダーなどの観光資源の活用、空き校舎の宿泊交流施設としての活用について説明した後）交流人口の増加について町田大使からご意見をお願いします。

町田大使：観光分野は経済波及効果が大きいので、大切にしていかなければいけません。しかし、地域全体がよその人を歓迎する雰囲気が必要。観光は育ちません。旅の面白さは旅先の人々との触れ合いの中で生まれてくるものです。地域を挙げて「観光客をお迎えする」という気持ちを持つことが大切だと思います。

松田町長から大田区との交流や農作業体験の受け入れについて説明がありました。農業は人生を終えるまで自然と触れ合える、生きがいを感じられるという利点を持っています。定年を迎えた都市部の人間にとって、土と触れ合うことは楽しみのひとつでもありますし、特に大田区にはそういった方が多いのではないのでしょうか。このような人たちに農作業体験を通じて美郷町に来ていた

キーワードは「暮らすような旅」 学びの要素を取り入れた旅行を

町長…そうですね。それを踏まえると町田大使の「都市部の高齢者を受け入れる」という構想は、先を読んだお話だと思います。永田大使はいかがでしょうか。

永田大使…最終的には町田大使のお話のとおり、美郷町に住んでいただくことがベストですが、今、「暮らすように旅をする」のがブームになっています。つまり、滞在型の旅行のことです。

小学校を宿泊交流施設にというお話がありました。すごく良いアイデアだと思います。私たちのような団塊の世代は潜在的な願望の一つに「学びたい、勉強したい」という思いを持っています。私たちは勉強や競争ばかりで育った世代ですが、これくらいの年齢になると、もう一度勉強したいという思いがすごく強くなるんです。ですから、小学校を宿舍にされるなら、ぜひ『学び』を一つの売りとしてみてはいかがでしょう。実際の教室を使って小学校の授業を再現したり、給食のようなランチが出てくるなど、面白い生かす方ができるのではないかと思います。それから、女性の力も大切です。道の駅には、地元のお母さん方の名前が書かれた野菜や加工品がたくさん並んでいますよね。これらの美味

しさの秘訣は主婦の味にあると思います。ここには豊かな食材がたくさんありますので、『学び』の中に美郷町の家庭料理が加わるのも魅力的かと思っています。

町長…『学び』の機能が付いた宿泊交流施設というのは、示唆に富んだご意見ですね。

町田大使、
佐々木大使、

永田大使の発言の中で共通項として「農作業体験や滞在型の旅行を通じて他地域の高齢者の方々を受け入れる」というお話がありました。農作業体験の在り方について、ご指摘ありませんでしょいか。
町田大使…いきなり米を作る野菜を作ると言われても、なかなか難しいのではないでしょいか。ある程度は地元の方々に

教えていただくことが必要だと思います。できるだけ本人の自主性を尊重し、サポートしていただく中で、農業の楽しさを実感することが大切です。定住して農業をやりたい方には、また別の対応が必要でしょう。

町長…秋田県にはNPOが極端に少な

いというお話がありましたが、地域活性化の観点から見ると、農作業体験のNPO化は可能でしょうか。

佐々木大使…不可能ではないと思います。町田大使のお話のとおり「土と触れ合いたい」というニーズもあれば、今後は「食の安全」といった様々なニーズが出てくるかもしれませんから。

永田大使…私も農家の出身なので、農業の大変さはよく分かります。農業の途中を体験することで収穫の分担に授かるなど、自分の労働が結果を伴い、それが収穫の喜びにもつながることは、惹きつけられる要素だと思います。ただ、いくら「暮らすように旅をしましょう」と言っても一週間で目の前にいきなりお米があらわれるわけではないですから、短期間で結果が出るような農作業を体験できる仕掛けが必要ですね。

3名の美郷大使の方々には、大変貴重なご提言をいただき誠にありがとうございました。ご紹介させていただいた内容はほんの一部ですが、皆さんは「美郷町の大切にすべき特徴」について、どのように感じられたでしょうか。

町では今後、いただいたご提言の施策への反映について、検討を行っていきます。

